

○会長挨拶

土曜開催で、15:00からの開催。コロナは大分落ち着いたようだが、インフルエンザが流行っている。2月も後半で3月も忙しい時期であるが、来年度の準備もある。よろしくお願いします。

◎校長挨拶

本日2時から、新一年生保護者説明会があった。来年の新一年は140名超えて5クラスかとも思っていたが、就学時健診では120名程度になった。本日の説明会で人数は増えた。他の学年も数名でクラス数が増える可能性がある。インフルエンザでの学級閉鎖も少し続いている。季節の変わり目で、体調を崩す子供も大人もいる。なんとか、しのいでいきたいと思っている。本日は、令和5年度の教育課程を説明し、承認をいただきたい。他の学校でも小学校の閉鎖が増えている感じである。

内藤博孝：インフルエンザの閉鎖か？→インフルである。4月の消防祭りも中止にした。消防署関係には協力を求められない状況。

○令和5年度教育課程の編成について

校長：通常の学級の教育課程についての説明（杉並区済美教育センターから出された令和5年度教育課程の編成の重点について…多様性、社会的共生、SDGsなど。人権を尊重した教育の推進。視点1、2をもとに重点…本当の取組（学習者主体：個別最適化、1人1台タブレットの活用、企業との連携を通して体験的な学習の取組、ちがいを生かして：インクルーシブ教育、グローバルな価値など、子供主体：子どもの意見と取り入れた学校行事の実施、子供の学校づくりへの参画など。）基盤となる教育活動について。）今までの本校の歴史を踏まえつつ、新しいものを取り入れた教育課程を編成した。教育目標は変えていないが、インクルーシブの考えが新しく入れている。自分で考え、自分で調整しながらやることを取り入れている。自分が選択してうまくいかなかったときに、自分で最後まで責任をもって取り組めるようにさせていきたいと考えている。皆さんにお読みいただき、練ったうえで提出していきたい。特別支援教室の教育課程について。こちら御確認いただきたい。

時数や、行事について、具体的な内容については教務副主任が質問にお答えします。

会長：小学校は基礎・基本を学ぶ。これまでの教育の流れを生かしながら、インクルーシブなどを取り入れているとの説明があった。お読みいただき、ご確認をください。

蘆塚：算数、理科、外国語は、専門的な教員に指導させるとのことがあったが、説明をお願いしたい。

校長：本校では、1年生から子供の学びの状況に応じて少人数算数指導を行っている。他の学校では3年以上が多いが、本校では学びのこしをさせないということで、低学年では専門性の高い講師の教員を入れ、算数少人数教員が担当してる。理科も、理科専科教員がおり、指導している。外国語は、ALTやJTEがセンターから配置されているので担任とチームティーチングで教えている。外国語の堪能な教員がいる学年は、その教員に指導させている。

蘆塚：能力の高い児童には、どんどん学べる環境を推進することが必要だと覆う。

青木：教育の領域が広がっている。子どもたちが学ぶときに、自ら進んで学ぶということだと難しいとおもうが、「自ら考え」というと、1・2年は難しいと思うので、ある程度学んでから行うのかなと思う。好きなことはどんどんやることもあり、教えることとの両立が難しいと思うが、どのように進めるのか。

校長：小さい子どもたちは、人とのかかわりを通して学んでいくことを行っている。豊かな体験活動を大切にしている。低学年では生活科があり、幼稚園等との連携を大切にしながら学習を進めている。学校として道徳などの全体計画を作り、他の教科と連携されながら取り組んでいる。

会長：戦後、欧米が子供中心の教育をすすめてきたが、教育の効率性がおちた。日本は一斉教育から、欧米先進国に追いついたことで、一層、創造性が高く求められるようになり、「自ら判断し、行動できる力」を育てることに力を入れるようになった。子供の思いだけでは学びの系統性が保てないから、教育課程に基づき、教員が確認・

分担しながら、計画的に教育を進めていくことになっていると思う。基礎をしっかり固める枠組として、教科がある。教育課程は大きな骨格である。

齋藤：ICTの利活用の推進について、デジタル関係についての指針はあるのか？ガイドラインはあるのか？  
→ない。

齋藤：デジタルは重要になる。できる人とできない人との差があると思う。使い勝手の良いソフトなどをフレキシブルに使っていくことが必要なのではないか。1年からタブレットPCを配るとなると、ガイドラインが必要。教員のレベルによってしまうと大変ではないか。小さいうちから、モラル等も教える必要がある。

校長：杉並区は、教育委員会が予算を計上して、教育センターから講師を派遣してもらい、研修等も行っている。若い教員は、どんどん使っている。都の中でも最先端をいっているほうである。

内藤：AI教育は？

校長：AIがどんなものか子供はわからないから、電気通信大学と連携し、AIロボットを活用させていく予定。ドローン、ロボットを学校で体験し触れ合わせる体験を本年度も行っている。

内藤：AI教育は学校で上手に行っていると思うが、家庭は戸惑っているのは？

校長：タブレットPCを持ち帰ると、家でゲームをしている子もいると思う。

蕨南：学校で規制とかはあるのか。

校長：フィルターはかかっている。

内藤博孝：昔教わったのは、勉強の仕方だった。勉強の仕方、人との付き合い方を学ぶことが大切。読んで自分のものにすることが大切。

会長：魚を与えるのではなく釣り方を教えるということだと思う。情報活用能力、適切なものを選ぶ、活用する基礎を培うこと、そういう力を育てることが小学校の教育だと思う。

齋藤：日本の良さ・すばらしさを学ぶことが、日本人の原点となると思う。他の国と比べるとかけている気がする。

青木：グローバルな考え方ということが入っているから、交流の中でそのような内容が入ってくると思う。

齋藤：小学校では日本の伝統を教えたり、体験させたりすることで身に付くと思う。

青木：コロナでできなくなったことも多かったと思う。

会長：日本人にとって、当たり前だと感じていることや「道」の文化のよさが、外国では喜ばれたりする。海外と比較したりしないと、分からないかもしれない。

青木：タブレットPCで、自分で調べることは楽しいと思う。正確な情報かどうかを確かめる方法も知ることが大切。

蕨南：海外に行くと、日本のことを紹介することを求められる。学校でも外国人を招き、交流することも大切。

校長：いろいろな人とかかわることで、自発的な思いで解決していく体験をやっていく必要がある。コロナになってから、活動を進めることが難しくなっていた。

会長：外国の文化に触れ、多様な文化、地域を学ぶため、いろいろな場面があると思う。

内藤英夫：外国の方が来て教えてくれることもよいと思う。

齋藤：大使館の人を招いて、話を聞くこともよい体験になる。

会長：子供の保護者で外国の方をお招きしてその国の生活文化・食文化などを紹介してもらうのもよいと思う。

蘆塚：地道に地域の中でふれあわせ、印象付けさせることも大事だともう。高井戸のよさを感じさせることもよいと思う。今と昔の比較なども。

会長：身近な生活の中の良いものに触れること、一つ一つを大切に、地域への愛着や誇りなどを育てていけるとよいと思う。

蕨南：評価についても、多様にしていく感じか？

校長：子供に生きる視点をもった評価をしていく必要がある。

蕨南：相対評価？

校長：今は絶対評価。子供自身が自己評価できる力を付けることが求められている。1時間ごとに必ず振り替えらせることを行っている。

会長：評価の公簿として国から示される指導要録がある。昔の相対評価ではなく、目標に照らし合わせて評価する「絶対評価」が示されている。それぞれの目標に向かった姿勢などを、評価している。

蕨南：数値化できないのは？教員の恣意的な部分もある？

校長：3つの方向性で評価している。知識・理解は、テストなど。教員の恣意的な部分は少なくなっていると思うが、好きな先生の学習は頑張るなど、児童にはあるかもしれない。

会長：日常の活動や日々の内容も評価していると思う。様々な記録を総合して評価しているので、教員の裁量もあると思うが、根拠に基づいて客観的評価に努めていると思う。

青木：教員は大変だと思う。

蘆塚：教員に、子供に向き合う時間を増やしてほしいと思う。

齋藤：教員のデジタルサポートのシステムを構築することも重要。事務処理も。子供のCS参加は、桃四が行っている。PTAや支援本部と協力して行っている。6年を体育館に集め、CS、PTA、など大人が集まって話し合った。6年生にそういう機会は、よい機会であった。

蕨南：中・高校生が参加することがサステナビリティとしてよい。卒業したことがかかわることがよいと思う。

青木：卒業生が学校にくると、お兄さん、お姉さんが来たということになって喜ぶと思う。

高野：中学校には、災害ボランティアの組織もある。

蘆塚：小学生にも連携できるとよいのかも。

校長：コロナが収まると、活動を広げていけるかもしれない。

校長：けやき学級の職員が、けやき学級の理解教室を行っている。子供たちが学ぶこと、教員同士が学ぶことをさらに進めていきたい。

会長：インクルーシブ、多様な価値観を育てていきたいというのが、高井戸小の特徴ということで、よい学びとなると思う。

校長：御承認という形でよろしいでしょうか。

全員：承認します。

○地域・関係団体から

高野：とくになし。9月の祭りも中止。夏休み期間中のラジオ体操はやりたい。

校長：卒業式は原則、マスクは児童・職員は外す。校歌はマスクをして歌う。

○CS次回は、3月16日（木）午後6時30分～校長室にて